

研究者紹介

平林 光幸

(ひらばやし みつゆき)

農林水産政策研究所研究員
農業・農村領域



●専門分野
水田農業政策，担い手論

●略歴

群馬県出身。高崎経済大学大学院地域政策研究科博士課程修了。財団法人農政調査委員会研究員を経て、平成23年4月より現職。博士（地域政策学）。

●これまでどのような研究に取り組んできたのですか？

学生時代から、主に水田農業政策と大規模水田農業経営の存立条件をテーマに、山形県、新潟県、滋賀県などをフィールドに、ヒアリング調査をベースとした実証的な研究を行ってきました。

●具体的にはどのような研究ですか？

近年、水田農業において中心的な存在であった小規模兼業農家は高齢化、後継者不足により離農傾向を強め、兼業農家の滞留構造は崩れつつあります。その結果、兼業農家と一部の大規模経営とが併存して水田農業を維持してきた生産構造が大きく転換してきています。その中で、家族経営に代わる担い手として組織経営体（法人経営や集落営農）などが各地で設立、展開されつつあります。これらの組織によって大規模な水田経営が行われておりますが、その経営収支等をみますと不安定な経営も一部には見られます。そこで、法人経営や集落営農と家族経営について、統計データや実態調査を通じて比較分析を行い、大規模水田経営の課題と改善策を検討してきました。また組織経営体などに対して経営支援を行っている地域において、経営支援の内容などを調査し、その効果などを明らかにし、必要な支援策などを検討してきました。

●今後の抱負は？

現在、戸別所得補償政策に代表されるような新しい政策が推し進められていますが、このような政策が大規模水田農業経営に与える影響、効果などについて調査・分析を進めていきたいと考えています。

鎌田 譲

(かまた ゆずる)

農林水産政策研究所研究員
食料・環境領域



●専門分野
農業及び食品産業の産業組織論的研究，生産経済学

●現在取り組んでいる主な研究テーマ

東日本大震災によるサプライチェーンへの影響について6次産業化の経済分析

●略歴

千葉県出身。2010年3月北海道大学博士（農学）。2010年～2011年北海道大学大学院農学研究科専門研究員、2011年4月農林水産政策研究所入所。

●これまでの研究はどのようなものですか？

外食・中食産業が成長することによる北海道米産地の需要の確保や外食・中食産業と北海道米産地との契約生産について研究してきました。前者は北海道の府県に対する品質差別化の結果であると考えられます。多様な消費者にいかにかに産地の特徴を生かして米を供給していくかが今後の稲作の維持・発展にとって重要であると思います。

契約生産は新しい方向で、農業にとって安定的な生産・販売の方法の一つと考えられます。また農産物の品質向上とインセンティブとがうまく組み合わせられれば、農業と食品産業とがともにメリットを得ることができると考えられます。

今後の農業の成長のためには、従来のようにただ一戸あたり農家の農地面積を拡大するだけではなく、多様な消費者にいかにかに食料を供給していくかが重要であると考えられます。そこでは製品差別化、品質水準や生産費用や価格の決定、戦略的行動、取引形態の選択、技術開発などを考えなくてはなりません。また農業生産から食品産業、消費者販売に至るまで垂直的な流れを捉える必要があります。また多様な消費者に向けた農業産地間の競争、食品産業間の競争、食品産業と農業との補完的成長などの複雑な内容を考えなくてはなりません。

●現在の研究はどのようなものですか？

研究グループの他のメンバーと共に、東日本大震災の食料サプライチェーンへの影響について調査・研究しています。震災によって、食料供給網が途切れ、食料品が小売店の陳列棚から無くなりました。食品産業の工場や倉庫が被害を受けたことにもよりますが、ガソリンや電気といった燃料の供給減少、道路や港湾、鉄道といった輸送インフラの破壊、農家や原材料企業の被災による農産物から包装資材に至るまでの原材料調達の停止などにもよっています。サプライチェーンの一部が影響を受けると全体も影響を受けます。消費者、企業ともにサプライチェーンに依存しています。震災による食品産業への影響や対応、望ましいサプライチェーンのあり方などについて研究しています。